

## 駒ヶ根市文化財

名称	大御食神社本殿
種別	建造物
指定	市・有形文化財(平成 23. 12. 27)
所在地	赤穂 11475
所有者	大御食神社
説明	<p>大御食(おおみけ)神社は近世の赤須村のほぼ中央、宮沢川の上流にあり、境内神域は古来より大樹が茂り美女ヶ森と呼ばれている。</p> <p>祭神は日本武尊(やまとたけるのみこと)・五郎姫神(いついらつひめのみこと)・誉田別尊(ほんだわけのみこと)。明治 5 年(1872)郷社。本社境内に流鏝馬所(やぶさめじょ)がある。また、9月の例祭には中世からの行事とされる獅子練り行われている。寛文 11 年(1671)以降の棟札、元禄 4 年(1691)の狛犬(石造)などもあり、江戸時代中期以降の歴史資料が多数保存されている。</p> <p>本殿は、間口 4.2mの規模の三間社流造(さんげんしゃながれづくり)、銅板葺(元こけら葺)の社殿で、軒唐破風をつける。見所は、正面の彫刻と繋ぎの龍彫刻で、立川流の彫刻技法がみごとに発揮されている。</p> <p>建築年代を示す資料として、2枚の棟札がある。1枚は、文久 3 年(1863)9 月の鉦(おの)始めのもの、もう1枚は、翌年の元治元年(1864)4 月の地鎮祭のものである。これらから、本殿造営の材木加工の着工が文久 3 年で、翌年に地鎮祭、上棟が行われたことがわかる。また、文久 3 年の棟札に「大工キソ斎藤常吉、彫工下スワ立木音四郎」とあり、大工棟梁が立川和四郎富昌の一番弟子の斎藤常吉、彫工が同じく立川弟子の立木音四郎であったことがわかり、立川流の大規模な社殿として位置づけられる。</p>



大御食神社本殿



向拝の彫刻